

『外国にルーツのある児童に対する教師のサポート』

5221053 菅野佑樹

5221055 清家颯人

5221069 戸倉萌恵

5221105 由良晃大

先行研究

明らかになったこと

・学校用具を学校でストックを用意するなど日本の学校生活のイメージを持てるように工夫している。

・言葉だけでは理解が困難な場合もあるので、写真や図を入れて説明

・学校において、教員や支援者が、その子供がどんな経験をしてきたのか耳を傾けることが重要

明らかになっていないこと

・言葉の壁による不安や、授業に付いていけなくなったときの具体的な対策

・外国籍の子供たちと日本の子供たちとの壁はあるか

・学校以外で日本語学習支援を受けているのか、どのような内容で、どの程度行われているのかなど、具体的な支援の実態

小学校でのフィールドワーク

神戸市内の公立小学校

2025年2月25～28日：A小学校、D小学校 2月20～22・26・27日：B小学校 2月20～27日：C小学校

A小学校（中国やヨーロッパ系の子が多くいた。）

ほとんどの児童は、会話することに困っていない様子



- ・言葉が難しいときや、テストの時は翻訳機（ポケトーク）を使って、話していた。
- ・授業中は、その子に机間指導を多く行っていた。

C小学校（中国系とベトナム系の児童が多くいた）

中国語を話して英語と日本語を少しだけ話せる児童がいた。



- ・ローマ字を平仮名に直すことはできるが、絵を見て平仮名に直すことは難しいので1年生で習う平仮名を普通学級で学習していた。
- ・通訳はポケトークを使用して連携を図っていた。

B小学校（校区が広くいろんな国にルーツのある子が多い）

入ったクラスでは、コミュニケーションで困っている児童はいなかった。



- ・読み書きに困難があり、国語の授業では国際学級で学習
- ・算数の授業では、課題の内容は変えずに量を半分に調節
- ・生活発表会では、原稿を持って読む配慮を行っていた。

D小学校（ベトナムにルーツのある子が多い）

学年を見て回ったが高学年になるほどサポートは減っていた。



- ・困ったことがあればすぐ言うよう普段から声掛けをし、一緒に行動
- ・平仮名を多く、指示を細かく
- ・取り出しで勉強

事前学習の取り組み

・文献要約

外国にルーツのある子どもについての文献要約

・先行研究

・フィールドワークを行うにあたっての調査計画書の作成

フィールドワークでの経験

・母語教室を体験して、日本語が難しい子どもが教室で感じている気持ちを考えることが出来た。

・日本語指導について学ぶことができた。

・インタビューにより外国にルーツのある子供と日本人が遊びを通して仲良くなったたりするにはどのような努力をしたとか見たり聞いたりして理解を深められた

・様々な学年を見て回ることによって学年によってサポートの仕方を個別に変えていくことの重要性を知ることが出来た。

フィールドワークでの困難

・クラスを見ていて、外国籍の子どもと日本語での意思疎通が難しく、関わりを絶やさないように心がげた。

・児童や担任の先生へのインタビューができなかった。

・関わり方の中で難しい言葉を使ってしまい、伝え方が難しかった。

・フィールドワーク中にグループでの連絡が無かった。



今後どのように活かすか

将来教師になり、外国籍児童への配慮事項を把握し、なるべく日本人の子供と早く馴染める援助ができるように学習を進めていきたい。

また、ボランティアなどの活動の際に、子どもたちや教師がしていた支援の方法を実践していけるようにする。

全ての活動を通してのまとめ

外国にルーツのある児童や台湾の方と関わり様々な文化や、環境を知ることが出来た。

また、関わる中で児童への伝え方や日本語支援の方法を学ぶことができ、視覚的に伝えることが重要だと再確認できた。

交流会



- ・お互いの国の文化を発表
- ・お互いの国の学校生活の違いを発表
- ・台湾と日本の食文化の違い
- ・1年間の行事の違いについて
- ・ミニゲーム（クイズ）

交流会を通して学んだこと

- ・言語が違うので、通訳を通してでも伝わりにくいことがあった。
- ・発表の時にもう少し工夫することができたと思う。



紹介動画